

# 革命的旗

共産主義者同盟(革命の旗) 中央機関紙

第11号  
1980.3.20  
(毎月5日、20日発行)  
定価 150円

発行人 北沢晋  
発行所 赤流社  
TEL (03) 407-3511  
東京都世田谷区千歳  
郵便局・私書箱4号  
振替口座 東京7-86947

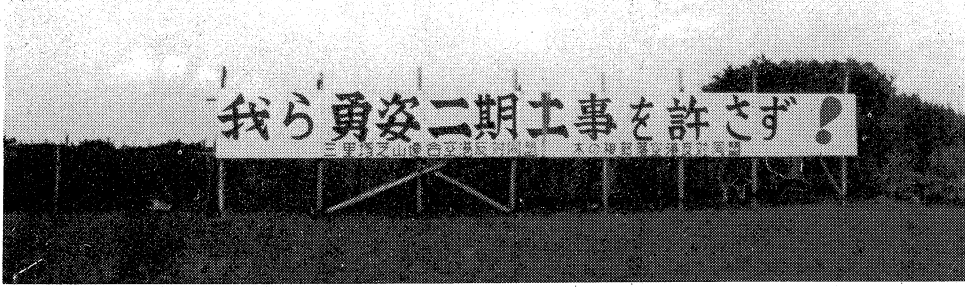
革命の旗 定期購読  
年間送料共2500円(開封)  
3000円(密封)

今号の主な内容

- ▽国際評論—燃える民族解放闘争……2面
- ▽塩見の連赤粛清肯定を糾弾する……3面
- ▽いかにたたかうか「80春闘」……4面
- ▽国内評論—80予算が狙うもの……5面
- ▽烽火派を批判する(下)……6面

## 革命的な反戦闘争・実力闘争・闘う農業建設!!

# 迫りくる激闘に立ち向かう勝利の核心を!



昨年九一六闘争以降、三里塚闘争は「二期工事着工—空港完成」か「着工実力阻止—空港廃港」かをめぐり、政府—公団と反対同盟—闘う労働者のシノギを削る闘いの一時期を経過した。それは十四年の闘いの全成果を打ち固め、八十年代三里塚闘争の勝利に向けた飛躍の基礎を創出する試練であったが故に、四項目目標を達成し、勝利の要は何かをめぐり激しい論戦を形成した。われわれはその中で、四項目目標を達成し、勝利の要は何かをめぐり激しい論戦を形成した。われわれはその中で、四項目目標を達成し、勝利の要は何かをめぐり激しい論戦を形成した。

更に、本年に入って、ソ社帝のアフガニスタン軍事侵略と米帝のまき返しという、全世界覇権争の激化—戦争と反動の挙国一致体制構築が、社・公・民の「連合政権」への動員—右翼的「労戦統一」をもつて急アンボに進行している。これと軌を一にして、政府—公団は二期工事着工に向けた一層狡猾な攻撃を新たに激化させている。しかし、労働者階級人民の頭上にあらゆる苦難と災禍をもつて襲いかかる日帝の戦争と反動の熱望の高まりの時代は、同時に「社会主義革命の実現のために、政治権力を獲得する準備をプロレタリア階級に全面的に整えさせるという任務を客観的に上らせている。時代である。その意味では、八十年代三里塚闘争の飛躍も、このような全般的攻勢の環に位置している。それ故、われわれはこの闘争を客観的に激化する攻撃を打ち砕く、春期—八十年代三里塚闘争の武装的発展を促進していかねばならない。

同志、読者諸君! 三里塚闘争を、ブルジョア階級独裁の打倒—プロレタリア階級独裁樹立を現実のものとする社会主義統一戦線を築き上げる一大戦場と押し上げ、三・三〇をその最初の一大決起として戦取していこうではないか!

### 二期工事の下準備—農民の分断・懐柔・解体を策す農振策攻撃

政府—公団は昨年未だかつてないほど、二期工事の準備を急進させている。二期工事の準備を急進させている。二期工事の準備を急進させている。二期工事の準備を急進させている。二期工事の準備を急進させている。

政府—公団は昨年未だかつてないほど、二期工事の準備を急進させている。二期工事の準備を急進させている。二期工事の準備を急進させている。二期工事の準備を急進させている。二期工事の準備を急進させている。

### 振興—といふ名の地獄

農振策攻撃の内容を公団の主張から見てみよう。「周辺地域社会が空港と調和のとれた発展がはかれること」によって、将

以上見てきたように農振策を軸とした成田用水事業、公団用地貸付けというこの間の攻撃は、すべて「二期着工—空港完成」を前提に、それに向けた攻撃として、政府—公団はこのことを通じて、農業に欠くことのできない「土と水」を自己の支配下に強力で再編し、もって反対同盟に利害の対立—矛盾を醸成させ、懐柔と分断をなすことを唯一の目的としているのだ。われわれは、こうした政府—公団の意図をしっかりと見ぬき、春期闘争の中で真正面から

### 全国的反戦反基地闘争と結合し、革命的な反戦闘争の一大戦場とせよ

戦争と革命の時代がいよいよ深まり、自衛隊のリムパック参加に見られる如く、日帝の戦争と反動への熱望が高まる中、三里塚空港への「国際化時代に見合った空港建設」という名目とは別に「国家事業」としての役割を「一層明らかにしている。ソ米の世間争闘と帝国主義戦争の接近という現下の情勢の下で日帝は、自己の独自利益のために、朝鮮半島からマラッカ海峡をへて、今や西太平洋全域にわたる出動体制を整え、日安保体制によってこれにガッチリとリンクさせつつ、J—ANZUS—環太平洋軍団安保の中心環へと登場しつつある。まさにかかる帝国主義戦争と侵略反革命に向けた空港建設とその再編—強化こそ、日帝の焦眉の課題である。空海陸の自衛隊強化と一体の基地機能の再編、強化のため、日帝は既存の自衛隊—米軍の基地機能の強化とともに、「第四次空港整備計画」を六十年計画で実現せんとしている。国際空港の整備(三里塚、新関西空港)と、一般空港のジェット化を八五年までに三から四三空港に増強するこの計画は、今日の地方大空港の大半が自衛隊との併用に供されている事実からしても明らかである。

更に、一般空港の軍事空港としての再編—強化であり、戦争準備の具体的な策動である事は疑いえない事実である。

### 戦争準備と農業の根本的転換点—それとどう闘うか

更にこうした帝国主義戦争の接近と日本階級闘争の歴史的転換に近づくに直して、戦後農業の基本構造の最終的解体—再編は革命的な闘争を要する。

性的向上のための闘いとするのか、社会主義革命へ向けた闘いの今日、農民の共通の未来としてのプロレタリア社会主義革命に近づいていくことはできない。言いかえれば、闘うすべての政治勢力の課題として問われているのだ。

もは、声高に「農民は過保護である」と叫びたて「農産物輸入の自由化—米価すえおき、土地集中を強力な行政指導によって実現せよ」と主張している。労働者階級の主張はブルジョア階級による搾取—収奪の強化にあるのではなく、「過保護な農民」と農産物価格の上昇にあると言っているのだ。もって労働者と農民の間に対立と分断を持ちこみ、農民を抑圧し、反抗を強める労働者階級を解体して、連合政権—右翼的「労戦統一」を通じて戦争と反動の挙国一致体制の一環へと組み込まんとしている。

従ってわれわれは、全国的な反戦反基地—反安保闘争を、戦争準備と反動攻勢への闘いと結びつけて、春期—三里塚闘争の武装的発展を戦取しなければならぬ。と同時にその闘いを、まさしく連合政権—右翼的「労戦統一」と闘い、革命的な祖国敗北主義を貫き、自国帝国主義打倒をめざす革命的な反戦闘争の一大戦場へとおしあげていかなければならぬのである。

### 投降の道—エセ「毛派」の社会愛国主義との闘争を

現在一部のエセ「毛派」は、戦争と革命の問題において祖国擁護の排外主義へと転落し、国家と革命の問題においてブルジョア階級独裁の国家権力を暴力革命で粉砕する任務を階級協調の城内平和へすり変え、もって右翼的「労戦統一」連合政権支持へと雷崩れを打っている。三里塚闘争の中にそれを打ち込まんとしている。一部の諸君は、昨秋「話し合い」攻撃と結びついて「話し合いこそ最大の戦場」と主張して実力闘争の旗を投げ捨てた。それは批判の集中砲火をあびて撤回したとはいえず、彼らにとってブルジョア国家権力と真正面から実力闘争すること、は「反民族戦線の城内平和を破壊するもの」と映っていることは明白であり、空港の軍事的側面に決する限りで農民—三里塚闘争は革命的な闘争を要する。

### 追出し狙う—用地貸付け

更に許すことのできない悪手な攻撃として敷地内農民の孤立化と、反対同盟の分断—破壊をねらって打ち出されてきたのが「公団用地貸付け」である。政府—公団はこの策動を進めるに際して、「空

### 成田用水—は空港用水

次により露骨な攻撃としてあるのが、この農振策と結びついた「成田用水事業」であり、「公団用地貸付け」である。政府—公団はこの策動を進めるに際して、「空

### この攻撃を闘う農業の強化で打ち砕け

以上見てきたように農振策を軸とした成田用水事業、公団用地貸付けというこの間の攻撃は、すべて「二期着工—空港完成」を前提に、それに向けた攻撃として、政府—公団はこのことを通じて、農業に欠くことのできない「土と水」を自己の支配下に強力で再編し、もって反対同盟に利害の対立—矛盾を醸成させ、懐柔と分断をなすことを唯一の目的としているのだ。われわれは、こうした政府—公団の意図をしっかりと見ぬき、春期闘争の中で真正面から

## 3.30 二期工事阻止—懐柔策粉砕—飛行阻止—三里塚空港廃港全国総決起集会

正午 第一公園 主催—三里塚芝山連合空港反対同盟

### 現局 — 二つの特徴

昨年十一月の朴射殺後、朝鮮情勢は、十一月四日MCA決起と十二月二日事件を節目にして激動を続けている。その現在の特徴は二つある。その二つは、

第一に、崔政権下で展開されているいわゆる「政治発展」の本質である。それは、軍主導のものに他ならず、「朴射殺」から五月近くももの非常に非常戒厳令が今なお持続され、戒厳令下の「民主化」という形容詞が弱体化した結果をもち、決して決してならず、この点に對しては、国民の自制と覚醒が切実に要求される。……この時点でいかなる個人又は集団であろうと、政治加勢現象をおこし、現存の社会秩序を乱し、無分別な行動をする時は、絶対に容赦しない。……南北間の対話は五千万のわが民族すべてが望むところであるが、平和の道は、北に北傀共和国を、南に南傀共和国を、赤化戦略の一環として利用する可能性があるので、すべての国民がこれを警戒し、對策を講ずねばならない。(二・一〇付「東亜日報」)

第二に、二事件で実権を掌握

### 朝鮮 — 崔一全体制との全面対決へ向う民主化闘争

した全斗煥軍保安司令官ら首脳階級の民主統一の闘いに対する弾圧の姿勢が如実に現れている。更に、金大中氏の大統領選出場に対して軍が「不快感」を露わにしていること、又崔政権にとって国政の優先順位が、①国家安全、②社会安定、③経済難局打開、④政治発展、とされていること、同様に、現在展開されている「改憲」大統領選をめぐる政治再編も、大きくはこの軍の設置した枠に沿って行われている。

崔一全政権の狙いは、「朴なまき独裁体制」を維持することであり、「民主化」と弾圧のアンビバレンスを用いて民主化勢力の離間・懐柔を進め、より巧妙に民衆を分断し、支配する新たな反共独裁体制を再確立することにある。

第二に、インフレ、不況、国際収支悪化のトリレンマは、解決の方途すら見出せぬまでに深刻化している。物価は、八〇年には卸売・消費者とも四〇%台に達するとの見られ、経済成長率は大巾な落ち込みを続け、八〇年には三・五%ラインまで低下すると予想され、経常収支の悪化も眼を覆うばかりである。八〇年四億七億ドルの赤字見込み、当然輸出も目標額に達せず、停滞を続けている。その結果、失業人口は八〇年には七十九万人となること予測されている。(下記の表を参照)

こうした状況に對するため、崔政権は

	1977年	1978年	1979年
卸売物価上昇率	9.0%	11.7%	23.8%
消費者物価上昇率	10.1%	14.4%	21.2%
GNP成長率	10.5%	11.6%	7.1% (暫定値)
経常収支 (一は赤字)	1億2300万ドル	-10億8520万ドル	-37億ドル
失業人口	51万1千人	44万2千人	57万4千人

(韓国銀行統計月報各号、八〇年韓国政府経済運用計画等による)

た。我々は、共和国の原則的かつ柔軟な対応を支持し、南半部人民の民主化闘争に固く連帯し、日米帝を揺り動かす闘いを創出せねばならない。

一月十二日ワシントン・レートの19・8%切り下げを発表した。だが、これによって現在の危機を回避できるはずもなく、逆にインフレの更なる昂進を招くことは不可避である。こうした経済危機の深まりは、朴射殺政変の直接的引き金となった一〇月釜山・馬山蜂起のような労働者・失業者を軸とした「民衆」の火種を、日米・再生産している。当局者の一人は「現政権は危機管理政府であり、三年先、五年先を考えた政策をとることはできぬ」と、その日ぐらしを吐露している。

第三に、米・日帝の崔政権へのテコ入れが強まっており、米日韓軍事一体化が具体的に進行している。米韓の共同軍事演習が頻りにくり返され、現在、四月一日までの五日間の日程で、史上最大規模の米韓軍事演習「チーム・スピリット80」が行われている。

### 民主化と南北統一

他方、真の民主統一を希求する韓国民衆は、昨十一月四日MCA決起をはじめ「朴なまき独裁体制」と非難的に対決して前進を開始している。しかし、民主化闘争の前進の前には、闘い取るべき現実的課題が山積している。その主なものは、①「維新体制」の全面的清算、「維新残党の処断」の徹底

的遂行。②のために維新体制の根幹をなしてきた「反共法」「国家安全法」などの反共法を撤廃し、憲法を改正し、それと共に反共意識の克服の推進、「反共法」等を葬り去ること、③金芝河氏、東一紡績労働者をはじめとする全ての「政治犯」釈放の速やかな実現。④労働三権、農民の生存権の獲得。⑤対外従属の経済構造の転換をおし進め、民族自立経済の形成へ踏み出していくこと。⑥この民主化闘争を自主的平和統一の闘いと結びつけて推進すること。

事態の根本的解決を求める労働者・農民を中軸とした民主化勢力が、上記の課題を一つ一つ実現しながら、崔一全体制との全面的な対決・決戦へと歩を進めていくことは、もはや必至である。

最後に、南北対話の進展についてふれておこう。一月十二日、朝鮮民主主義人民共和国が、韓国の要人十二人に対し「統一への重要提案」を盛り込んだ書簡を送った。この書簡は、一年ぶりに南北対話が再開された。今回の呼びかけの特徴は、①野党と軍にわたって幅広い指導層を対象としていること。②南北政治協定と共に当局者会議を行うこととしていることである。一月二十四日、韓国側は予備会議を行う旨の返事を送り、二月六日、十九日、三月四日、十八日の四度、板門店で予備会議が開かれ

# 燃上がる民族解放闘争



二月二日から数日間、アフガニスタン首都カブールで、ソ連の軍事侵略以降始まる反ソ反カブールのゼネストの嵐が吹き荒れ、「アラ・アクバル」神は偉大なり」のソ連はアフガニスタンから出て行け」の声を

### 敗走するベトナム

ベトナム軍は、昨年十月から十一月にかけて、八個師団の兵力を集結して東北地区と中部地区で第一次乾期攻勢をかけた。彼らはその時期に、同地区の民主カンボジア部隊を一掃し、更に兵力を集中して西部地区での包圍討伐に出ようと、したわけである。ところが、かかる第一次、更にはこの一月にかけた第二次乾期攻勢のそのいずれもが一敗地にまみれ、所期の目的を果すことはできなかったのだ。

そこで彼らは最近、五月雨期入り前に急襲攻勢をとりつるおと、カンボジア・タイ国境に四個師団から六個師団、兵力五万人を集結させ、カンボジア人民の殺りくを画策している。先頃の民主カンボジア外務省の発表によれば、彼らはそれに際し

### カンボジア — 民族絶滅攻撃と不屈に闘う人民戦争の前進

線を全国化してベトナム軍に損害を与えている。カンボジア国内で抗越救国抵抗戦線が拡大し、これを受け人民の志気が著しく高まっている。他方、ベトナム軍とヘン・サムリンからい軍の志気は、伝えられる兵士の相次ぐ逃亡と反抗の増大、更に抗越救国戦線への復讐の続発に見られるように、増々低下している。それに加えて、先頃ラオスのゲリラ基地を訪れ

### うなだれるベトナム師団

ついで最近来日したベトナムのレ・タイン少将がその記者会見で「カンボジアの情勢の安定」「軍事問題は既に解決」と述べたことは裏腹に、彼らはその戦略目標を果せないばかりか、局面悪化の一途をたどっている。ベトナム経済は、軍事支出と侵略軍維持の重荷によって悪化の一途をたどっており、特に南部で人民の不満が増大し、彼らはそれ故に一層カンボジアへの入植カンボジア民族絶滅を強め、更にはタイへも機をうかがっている。カンボジア人民も固く連帯して闘っているタイ共産党はベトナムがタイ東部に「臨時政府」をテッチ上げ、タイに侵襲し、東半部を併合する危険に備えねばならないと訴えている。ベトナムは、タイ共産党ゲリラをラオスから追いつき、タイに侵襲し、東半部を併合する危険に備えねばならないと訴えている。

## 特集 国際闘争の最前線

ベトナムは人民蜂起の様相さえおびえている。首都のほとんどの商店が閉まり、政府機関の職員さえこのデモや集会に合流し、市街のあちこちでは銃撃戦へ至った。二三日には、この闘いが地方主要都市のカンダハルやヘラト等全国的に広がり、これに恐怖したソ連とカブールの反共主義者、ソ連軍の存在とモスクワの指揮で辛うじて命脈をつないでいる。そして侵略者といわれない達はナバーム弾・毒ガス等の「近代兵器」によって民族解放闘争の抑圧と虐殺を露骨に暴虐を深めている。

だから我々は、以下の点を明確にしなければならぬ。第一は、第四インターから人力派、協会派、平和と社会主義グループ

### アフガニスタン — 反ソ・反カブールの民族解放闘争へ進撃する闘い

は、何よりもアフガニスタン人民自身の民族解放闘争こそ圧倒的に主要なものであつた。帝国主義的競争は付随的なものにすぎないことを突き出さねばならない。第三はマル労働等が、この民族戦争は封建勢力も加わっているが故に進歩的とは認められないとして、結局、第四インター等に追随するのに対して、この民族戦争の進歩的意義を明確に押し出すことである。確かに、イスラムゲリラは当初、タラキ政権の「農地解放」に反対する部族的階級を基盤とする封建勢力を中心としていた。しかし今では、ソ連の直接支配・じゅうりんと対抗の中で新たな階級の変化が生じ、民族

### 泥沼に陥るソ連帝

この間、ソ連軍とカブールからい兵は、主要都市と幹線道路を確保してきたにすぎず、他方では、前政権が進めた「農地解放」の大量釈放等の融和政策を行使してきた。だがそれは惨めな失敗におわり、進行してきた事実上、政府軍の多くのソ連軍による武装解除であり、ゲリラ掃討戦での地上戦闘には一部は人民民主指揮下の軍

### アフガニスタン — 反ソ・反カブールの民族解放闘争へ進撃する闘い

に包まれている。昨十二月末からのソ連の侵略に對するアフガニスタン人民の抵抗闘争は、地方段階のゲリラ闘争から都市住民の大衆闘争へと発展し、アフガニスタン民族解放闘争の新たな局面を示している。今回の地上戦闘には一部は人民民主指揮下の軍

### 民族民主闘争への発展

解放闘争としての発展局面が開かれ、民族的民主主義的蜂起・戦争として前進しつつある。これに応じて貧農・農業労働者・都市小商工業者・下級職員・元政府軍等が広汎に登場した人民蜂起・人民戦争として発展しつつあり、民族統一戦線が形成されつつある。

そもそもタラキ・アミン下の「土地革命」自身、その主要な生産が農業と牧畜で家長的部族が支配的であったアフガニスタン・イスラム社会構成に於いて、貧農や農業労働者の闘いと結びついて彼らの封建階級

### うなだれるベトナム師団

ついで最近来日したベトナムのレ・タイン少将がその記者会見で「カンボジアの情勢の安定」「軍事問題は既に解決」と述べたことは裏腹に、彼らはその戦略目標を果せないばかりか、局面悪化の一途をたどっている。ベトナム経済は、軍事支出と侵略軍維持の重荷によって悪化の一途をたどっており、特に南部で人民の不満が増大し、彼らはそれ故に一層カンボジアへの入植カンボジア民族絶滅を強め、更にはタイへも機をうかがっている。カンボジア人民も固く連帯して闘っているタイ共産党はベトナムがタイ東部に「臨時政府」をテッチ上げ、タイに侵襲し、東半部を併合する危険に備えねばならないと訴えている。ベトナムは、タイ共産党ゲリラをラオスから追いつき、タイに侵襲し、東半部を併合する危険に備えねばならないと訴えている。

### 民族民主闘争への発展

解放闘争としての発展局面が開かれ、民族的民主主義的蜂起・戦争として前進しつつある。これに応じて貧農・農業労働者・都市小商工業者・下級職員・元政府軍等が広汎に登場した人民蜂起・人民戦争として発展しつつあり、民族統一戦線が形成されつつある。

そもそもタラキ・アミン下の「土地革命」自身、その主要な生産が農業と牧畜で家長的部族が支配的であったアフガニスタン・イスラム社会構成に於いて、貧農や農業労働者の闘いと結びついて彼らの封建階級



# に抗する戦闘的息吹を 働運動の奔流へ

日帝の体制的危機の深まりの中、帝国主義戦争の公然たる準備、官僚機構の再編強化＝行政合理化と職安帯の再強化、不況合理化と物価騰貴の大波が、一つながりになって労働者に襲いかかっている。また労働貴族どもは、経営参加・国策協力と戦争準備協力を両面として、社公民連合政権路線に基づく右翼的「労戦統一」を推進し、ブルジョア階級独裁の擁護に躍起となっている。この現実を、「社会主義をめざす労働運動」を掲げて前

進してきた戦闘的労働者に、真にその実質を築き上げる闘いを問ひ、試練にかけている。今、それのように着手され、共有化されるべき真剣な模索と努力が開始されているのだろうか。シリーズ「いかに闘うか80春闘」は、広く各産別・職場の闘う労働者からの問題提起をもってその第一歩を印すものである。前号での合同労組・造船産別に続いて、今号では金属・全通・自治労の同志の報告を掲載し、次号へと継続する予定である。



## いかに闘うか 80春闘

現場の現場が  
シリーズ ②  
4回全国労働者討論集会

日帝の体制的危機の深まりの中、帝国主義戦争の公然たる準備、官僚機構の再編強化＝行政合理化と職安帯の再強化、不況合理化と物価騰貴の大波が、一つながりになって労働者に襲いかかっている。また労働貴族どもは、経営参加・国策協力と戦争準備協力を両面として、社公民連合政権路線に基づく右翼的「労戦統一」を推進し、ブルジョア階級独裁の擁護に躍起となっている。この現実を、「社会主義をめざす労働運動」を掲げて前

進してきた戦闘的労働者に、真にその実質を築き上げる闘いを問ひ、試練にかけている。今、それのように着手され、共有化されるべき真剣な模索と努力が開始されているのだろうか。シリーズ「いかに闘うか80春闘」は、広く各産別・職場の闘う労働者からの問題提起をもってその第一歩を印すものである。前号での合同労組・造船産別に続いて、今号では金属・全通・自治労の同志の報告を掲載し、次号へと継続する予定である。

日帝の体制的危機の深まりの中、帝国主義戦争の公然たる準備、官僚機構の再編強化＝行政合理化と職安帯の再強化、不況合理化と物価騰貴の大波が、一つながりになって労働者に襲いかかっている。また労働貴族どもは、経営参加・国策協力と戦争準備協力を両面として、社公民連合政権路線に基づく右翼的「労戦統一」を推進し、ブルジョア階級独裁の擁護に躍起となっている。この現実を、「社会主義をめざす労働運動」を掲げて前

進してきた戦闘的労働者に、真にその実質を築き上げる闘いを問ひ、試練にかけている。今、それのように着手され、共有化されるべき真剣な模索と努力が開始されているのだろうか。シリーズ「いかに闘うか80春闘」は、広く各産別・職場の闘う労働者からの問題提起をもってその第一歩を印すものである。前号での合同労組・造船産別に続いて、今号では金属・全通・自治労の同志の報告を掲載し、次号へと継続する予定である。

日帝の体制的危機の深まりの中、帝国主義戦争の公然たる準備、官僚機構の再編強化＝行政合理化と職安帯の再強化、不況合理化と物価騰貴の大波が、一つながりになって労働者に襲いかかっている。また労働貴族どもは、経営参加・国策協力と戦争準備協力を両面として、社公民連合政権路線に基づく右翼的「労戦統一」を推進し、ブルジョア階級独裁の擁護に躍起となっている。この現実を、「社会主義をめざす労働運動」を掲げて前

進してきた戦闘的労働者に、真にその実質を築き上げる闘いを問ひ、試練にかけている。今、それのように着手され、共有化されるべき真剣な模索と努力が開始されているのだろうか。シリーズ「いかに闘うか80春闘」は、広く各産別・職場の闘う労働者からの問題提起をもってその第一歩を印すものである。前号での合同労組・造船産別に続いて、今号では金属・全通・自治労の同志の報告を掲載し、次号へと継続する予定である。

日帝の体制的危機の深まりの中、帝国主義戦争の公然たる準備、官僚機構の再編強化＝行政合理化と職安帯の再強化、不況合理化と物価騰貴の大波が、一つながりになって労働者に襲いかかっている。また労働貴族どもは、経営参加・国策協力と戦争準備協力を両面として、社公民連合政権路線に基づく右翼的「労戦統一」を推進し、ブルジョア階級独裁の擁護に躍起となっている。この現実を、「社会主義をめざす労働運動」を掲げて前

進してきた戦闘的労働者に、真にその実質を築き上げる闘いを問ひ、試練にかけている。今、それのように着手され、共有化されるべき真剣な模索と努力が開始されているのだろうか。シリーズ「いかに闘うか80春闘」は、広く各産別・職場の闘う労働者からの問題提起をもってその第一歩を印すものである。前号での合同労組・造船産別に続いて、今号では金属・全通・自治労の同志の報告を掲載し、次号へと継続する予定である。

日帝の体制的危機の深まりの中、帝国主義戦争の公然たる準備、官僚機構の再編強化＝行政合理化と職安帯の再強化、不況合理化と物価騰貴の大波が、一つながりになって労働者に襲いかかっている。また労働貴族どもは、経営参加・国策協力と戦争準備協力を両面として、社公民連合政権路線に基づく右翼的「労戦統一」を推進し、ブルジョア階級独裁の擁護に躍起となっている。この現実を、「社会主義をめざす労働運動」を掲げて前

進ってきた戦闘的労働者に、真にその実質を築き上げる闘いを問ひ、試練にかけている。今、それのように着手され、共有化されるべき真剣な模索と努力が開始されているのだろうか。シリーズ「いかに闘うか80春闘」は、広く各産別・職場の闘う労働者からの問題提起をもってその第一歩を印すものである。前号での合同労組・造船産別に続いて、今号では金属・全通・自治労の同志の報告を掲載し、次号へと継続する予定である。

日帝の体制的危機の深まりの中、帝国主義戦争の公然たる準備、官僚機構の再編強化＝行政合理化と職安帯の再強化、不況合理化と物価騰貴の大波が、一つながりになって労働者に襲いかかっている。また労働貴族どもは、経営参加・国策協力と戦争準備協力を両面として、社公民連合政権路線に基づく右翼的「労戦統一」を推進し、ブルジョア階級独裁の擁護に躍起となっている。この現実を、「社会主義をめざす労働運動」を掲げて前

進ってきた戦闘的労働者に、真にその実質を築き上げる闘いを問ひ、試練にかけている。今、それのように着手され、共有化されるべき真剣な模索と努力が開始されているのだろうか。シリーズ「いかに闘うか80春闘」は、広く各産別・職場の闘う労働者からの問題提起をもってその第一歩を印すものである。前号での合同労組・造船産別に続いて、今号では金属・全通・自治労の同志の報告を掲載し、次号へと継続する予定である。

日帝の体制的危機の深まりの中、帝国主義戦争の公然たる準備、官僚機構の再編強化＝行政合理化と職安帯の再強化、不況合理化と物価騰貴の大波が、一つながりになって労働者に襲いかかっている。また労働貴族どもは、経営参加・国策協力と戦争準備協力を両面として、社公民連合政権路線に基づく右翼的「労戦統一」を推進し、ブルジョア階級独裁の擁護に躍起となっている。この現実を、「社会主義をめざす労働運動」を掲げて前

進ってきた戦闘的労働者に、真にその実質を築き上げる闘いを問ひ、試練にかけている。今、それのように着手され、共有化されるべき真剣な模索と努力が開始されているのだろうか。シリーズ「いかに闘うか80春闘」は、広く各産別・職場の闘う労働者からの問題提起をもってその第一歩を印すものである。前号での合同労組・造船産別に続いて、今号では金属・全通・自治労の同志の報告を掲載し、次号へと継続する予定である。

日帝の体制的危機の深まりの中、帝国主義戦争の公然たる準備、官僚機構の再編強化＝行政合理化と職安帯の再強化、不況合理化と物価騰貴の大波が、一つながりになって労働者に襲いかかっている。また労働貴族どもは、経営参加・国策協力と戦争準備協力を両面として、社公民連合政権路線に基づく右翼的「労戦統一」を推進し、ブルジョア階級独裁の擁護に躍起となっている。この現実を、「社会主義をめざす労働運動」を掲げて前

進ってきた戦闘的労働者に、真にその実質を築き上げる闘いを問ひ、試練にかけている。今、それのように着手され、共有化されるべき真剣な模索と努力が開始されているのだろうか。シリーズ「いかに闘うか80春闘」は、広く各産別・職場の闘う労働者からの問題提起をもってその第一歩を印すものである。前号での合同労組・造船産別に続いて、今号では金属・全通・自治労の同志の報告を掲載し、次号へと継続する予定である。

日帝の体制的危機の深まりの中、帝国主義戦争の公然たる準備、官僚機構の再編強化＝行政合理化と職安帯の再強化、不況合理化と物価騰貴の大波が、一つながりになって労働者に襲いかかっている。また労働貴族どもは、経営参加・国策協力と戦争準備協力を両面として、社公民連合政権路線に基づく右翼的「労戦統一」を推進し、ブルジョア階級独裁の擁護に躍起となっている。この現実を、「社会主義をめざす労働運動」を掲げて前

進ってきた戦闘的労働者に、真にその実質を築き上げる闘いを問ひ、試練にかけている。今、それのように着手され、共有化されるべき真剣な模索と努力が開始されているのだろうか。シリーズ「いかに闘うか80春闘」は、広く各産別・職場の闘う労働者からの問題提起をもってその第一歩を印すものである。前号での合同労組・造船産別に続いて、今号では金属・全通・自治労の同志の報告を掲載し、次号へと継続する予定である。

日帝の体制的危機の深まりの中、帝国主義戦争の公然たる準備、官僚機構の再編強化＝行政合理化と職安帯の再強化、不況合理化と物価騰貴の大波が、一つながりになって労働者に襲いかかっている。また労働貴族どもは、経営参加・国策協力と戦争準備協力を両面として、社公民連合政権路線に基づく右翼的「労戦統一」を推進し、ブルジョア階級独裁の擁護に躍起となっている。この現実を、「社会主義をめざす労働運動」を掲げて前

進ってきた戦闘的労働者に、真にその実質を築き上げる闘いを問ひ、試練にかけている。今、それのように着手され、共有化されるべき真剣な模索と努力が開始されているのだろうか。シリーズ「いかに闘うか80春闘」は、広く各産別・職場の闘う労働者からの問題提起をもってその第一歩を印すものである。前号での合同労組・造船産別に続いて、今号では金属・全通・自治労の同志の報告を掲載し、次号へと継続する予定である。

日帝の体制的危機の深まりの中、帝国主義戦争の公然たる準備、官僚機構の再編強化＝行政合理化と職安帯の再強化、不況合理化と物価騰貴の大波が、一つながりになって労働者に襲いかかっている。また労働貴族どもは、経営参加・国策協力と戦争準備協力を両面として、社公民連合政権路線に基づく右翼的「労戦統一」を推進し、ブルジョア階級独裁の擁護に躍起となっている。この現実を、「社会主義をめざす労働運動」を掲げて前

進ってきた戦闘的労働者に、真にその実質を築き上げる闘いを問ひ、試練にかけている。今、それのように着手され、共有化されるべき真剣な模索と努力が開始されているのだろうか。シリーズ「いかに闘うか80春闘」は、広く各産別・職場の闘う労働者からの問題提起をもってその第一歩を印すものである。前号での合同労組・造船産別に続いて、今号では金属・全通・自治労の同志の報告を掲載し、次号へと継続する予定である。

日帝の体制的危機の深まりの中、帝国主義戦争の公然たる準備、官僚機構の再編強化＝行政合理化と職安帯の再強化、不況合理化と物価騰貴の大波が、一つながりになって労働者に襲いかかっている。また労働貴族どもは、経営参加・国策協力と戦争準備協力を両面として、社公民連合政権路線に基づく右翼的「労戦統一」を推進し、ブルジョア階級独裁の擁護に躍起となっている。この現実を、「社会主義をめざす労働運動」を掲げて前

進ってきた戦闘的労働者に、真にその実質を築き上げる闘いを問ひ、試練にかけている。今、それのように着手され、共有化されるべき真剣な模索と努力が開始されているのだろうか。シリーズ「いかに闘うか80春闘」は、広く各産別・職場の闘う労働者からの問題提起をもってその第一歩を印すものである。前号での合同労組・造船産別に続いて、今号では金属・全通・自治労の同志の報告を掲載し、次号へと継続する予定である。

日帝の体制的危機の深まりの中、帝国主義戦争の公然たる準備、官僚機構の再編強化＝行政合理化と職安帯の再強化、不況合理化と物価騰貴の大波が、一つながりになって労働者に襲いかかっている。また労働貴族どもは、経営参加・国策協力と戦争準備協力を両面として、社公民連合政権路線に基づく右翼的「労戦統一」を推進し、ブルジョア階級独裁の擁護に躍起となっている。この現実を、「社会主義をめざす労働運動」を掲げて前

進ってきた戦闘的労働者に、真にその実質を築き上げる闘いを問ひ、試練にかけている。今、それのように着手され、共有化されるべき真剣な模索と努力が開始されているのだろうか。シリーズ「いかに闘うか80春闘」は、広く各産別・職場の闘う労働者からの問題提起をもってその第一歩を印すものである。前号での合同労組・造船産別に続いて、今号では金属・全通・自治労の同志の報告を掲載し、次号へと継続する予定である。

日帝の体制的危機の深まりの中、帝国主義戦争の公然たる準備、官僚機構の再編強化＝行政合理化と職安帯の再強化、不況合理化と物価騰貴の大波が、一つながりになって労働者に襲いかかっている。また労働貴族どもは、経営参加・国策協力と戦争準備協力を両面として、社公民連合政権路線に基づく右翼的「労戦統一」を推進し、ブルジョア階級独裁の擁護に躍起となっている。この現実を、「社会主義をめざす労働運動」を掲げて前

進ってきた戦闘的労働者に、真にその実質を築き上げる闘いを問ひ、試練にかけている。今、それのように着手され、共有化されるべき真剣な模索と努力が開始されているのだろうか。シリーズ「いかに闘うか80春闘」は、広く各産別・職場の闘う労働者からの問題提起をもってその第一歩を印すものである。前号での合同労組・造船産別に続いて、今号では金属・全通・自治労の同志の報告を掲載し、次号へと継続する予定である。

日帝の体制的危機の深まりの中、帝国主義戦争の公然たる準備、官僚機構の再編強化＝行政合理化と職安帯の再強化、不況合理化と物価騰貴の大波が、一つながりになって労働者に襲いかかっている。また労働貴族どもは、経営参加・国策協力と戦争準備協力を両面として、社公民連合政権路線に基づく右翼的「労戦統一」を推進し、ブルジョア階級独裁の擁護に躍起となっている。この現実を、「社会主義をめざす労働運動」を掲げて前

進ってきた戦闘的労働者に、真にその実質を築き上げる闘いを問ひ、試練にかけている。今、それのように着手され、共有化されるべき真剣な模索と努力が開始されているのだろうか。シリーズ「いかに闘うか80春闘」は、広く各産別・職場の闘う労働者からの問題提起をもってその第一歩を印すものである。前号での合同労組・造船産別に続いて、今号では金属・全通・自治労の同志の報告を掲載し、次号へと継続する予定である。

### 全進

帝国主義戦争準備のための労働戦線の右翼的再編と、日本労働運動を支配する改良主義指導部の資本主義体制の救済者としてのより一層の純化が深まっている。それと軌を一にした形でわが全通において、「産業一組織」組織は「一」の名のもとに郵政内右翼的労戦統一、全通の全郵政化、全郵の合併策動が急速に押し進められている。

### 新たな単一戦闘司令部 建設こそ闘いのカギ!

帝国内戦準備のための労働戦線の右翼的再編と、日本労働運動を支配する改良主義指導部の資本主義体制の救済者としてのより一層の純化が深まっている。それと軌を一にした形でわが全通において、「産業一組織」組織は「一」の名のもとに郵政内右翼的労戦統一、全通の全郵政化、全郵の合併策動が急速に押し進められている。

### 特昇導入＝合併路線に走る民同

この間全通では、スト権スト、四・二八処分等での賃カツ分を組合財政の内犠牲者救済資金で補填してきたが、大量処分は組合財政を激しく圧迫し、大巾な赤字が生み出されている。これを理由に全通民同は特昇制度内の「実損回復」という項目を自覚して、財政立て直しには特昇導入しかない」と決めた。下部の反対意見には「特昇導入か、組合費の値上げか」とどうにかつを加えている。こ

### 枯野を焼きつくす

現場労働者の日々の生活実態に耐乏生活の強制への怒りを根拠に全通民同は「八〇年春闘方針大綱」を発表し、二万円の賃上げ（二〇％のべア）を統一要求とした。しかし、これすらインフレ・物価上昇の後を追いかけているにすぎず、更に右翼的「労戦統一」がらみの総評・春闘共闘の八〇％要求など、現場労働者にとってはお話しにもならない要求なのだ。

### 全金の「戦闘性」とは?

全金加盟支部（六八六支部）の平金賃金状況を見ると、大手支部に何ら手をふれることがなく、低額要求と重ねあわせてみれば「経営実績」状態を前提にして組むという単純なものでは決してない。

### 統一パスにすぎない民同

現在、右翼的「労戦統一」が日程のぼればのぼるほど、全金の動向が、というより、全金民同の動向と、先進的労働者の役割が重大なものとなってきた。それは全金傘下の多くが、多かれ少なかれ独自の請下か、その圧迫を受けている中小零細企業の労働組合で

### 左翼反対派からの脱皮へ

現在、こうした闘争の中から、先進的労働者間で全通労働者の階級的利益を代表し、本部民同に對する単一の戦闘司令部をつくり出さねばならないという気運が、戦術左派、左翼反対派としての従来の活動の反省から広汎に生まれている。われわれは、自から当面職場闘争をカネとする組合員の関心の先頭に立ち、下部組合員大衆の決起を大きく組織し、この気運をいっそう高めるための先進的労働者の共同した努力を重ねなければならぬ。また同時に、全通労働者の単一の戦闘司令部建設の気運を確固とし、左翼反対派運動のくり返しを行うのではなく、構造化せんとするものであり、②それを通過し、全労働者階級の労働条件を、まさに今日の資本主義の危機に見合ったものとして切り下げんとするものに他ならない。そして、重要なことは、この攻撃が七八年秋、つまり民事執行法が具体的な日程にのぼり、右翼的「労戦統一」が再浮上し、また来たる東京大会にのぞまねばならない。

### 全金民同の破産を突き破り 枯野を焼きつくさん!

中小金属機械産別において、労働者階級の、日帝・ブルジョア階級による「耐乏と奉仕」の強制的な肉體破壊を伴って、暴力的に進行している。日経連による「労働生産性の向上と、経営の支払能力」を基調とした労働者対策は、大資本の内留保の増大（七五年で二・三倍）とは逆に、「労働生産性の向上」全産業では、前年比八・二（増）賃金コストの三年連続低下と、労働災害の六年連続増加（労災死者に至っては、七五年以降六年ぶりに増加）に象徴される労働者の災厄と窮乏の強化として貫徹している。

### 全金の「戦闘性」とは?

全金加盟支部（六八六支部）の平金賃金状況を見ると、大手支部に何ら手をふれることがなく、低額要求と重ねあわせてみれば「経営実績」状態を前提にして組むという単純なものでは決してない。

### 統一パスにすぎない民同

現在、右翼的「労戦統一」が日程のぼればのぼるほど、全金の動向が、というより、全金民同の動向と、先進的労働者の役割が重大なものとなってきた。それは全金傘下の多くが、多かれ少なかれ独自の請下か、その圧迫を受けている中小零細企業の労働組合で

### 枯野を焼きつくす 闘いの火花をつくりだせ!

わが組合にあっても「赤字経営」を口実とする賃金抑制・労働強化に対する広汎な不満を有効な反撃へと組織しえず、八〇春闘を迎えんとしている。八五〇〇円の最賃すら確保していない労働者が多数存在するという実態（全金傘下で）は、一方であきらめと個人の不平・不満や反抗に終始させてはいても、他方、闘いの火花を待った乾いた枯草のようだ。赤字だ、黒字だはおれたち労働者には関係ない。それは経営者の責任だ。生活できる賃金と働きやすい職場をつくれ」という闘いから始めなければならない現実を直視し、職場の不満を闘う団結へとつくりか

### 反動性むきだす 78年報告

では、七八年報告の反動性・攻撃性とは何か? 「男女雇用機会均等法」を理由として、長時間労働・深夜業・危険有害業務等の制限・禁止規定の緩和・生休の廃止、パート労働条件の規定などを打ち出したこの報告は、周知の通り、東京商工会議所の「労働基準法に関する意見書（七〇年）」を踏襲したものである。この事実自体が報告の狙いを暴露しているものであるが、それは、①高度成長期、若年労働力の慢性的不足を補うものとして大量に生み出されたパートタイマー（ここでは、六一条一八八条の保護規定など、事実上存在しない）に典型的な女性労働者の劣悪な労働条件を、その劣悪さの前提たる社会的女性差別を強化（育児法制定化、あるいは「家庭の日」設置策動を見よ）しつつ、法制度の追認し構造化せんとするものであり、②それを通過し、全労働者階級の労働条件を、まさに今日の資本主義の危機に見合ったものとして切り下げんとするものに他ならない。そして、重要なことは、この攻撃が七八年秋、つまり民事執行法が具体的な日程にのぼり、右翼的「労戦統一」が再浮上し、また来たる東京大会にのぞまねばならない。

### 79年報告の狙い

この七八年十一月報告をうけて七九年九月報告は提出された。(1)就業規則(八九条・九三条)についても資本のインシアチフで作成・運用されるものとして「就業規則」は規定されているが、「報告」はその規範的拘束力の強化・拡大を狙って、その作成・変更九〇条をめぐり労働者の立場を否定し、労働者の同意を必要とすれば、就業規則作成も円滑に進まないとまで言い切っている。これは中小零細企業での未組織（それ故労働協約もない）職場において、就業規則が全くの使用者の一方的判断・恣意に委ねられている現状を追認するばかりではなく、労使交渉を合法化し、体制内に取り込むことで、支配の安定を組織してきた。しかし、民事執行法がその突破口となったように、今度は労基法の側から「労使紛争の迅速な解決」と称して、国家権力の直接介入を合法化・追認せんとしている。激発する労働争議（とくに既成労組指導部・労働貴族どもの統制を打ち破り決起しつつある）に対して、「勸告に従わない、それ故争議とは認めない違法行為」とし、刑事弾圧の拡大強化に大きく道を開くものである。戦前の「サーベール調停」と言われた争議調停法（この間、出向・派遣や、元請下請孫請等、雇用関係の複雑化（これはとりもなおさず独占の支配の強化と一対になつた搾取・収奪の体系化）もあつた）をめぐる、労使関係の見直しを提起している。これは現在そのほとんどが独占の請下化している中小企業において、反側産別争を闘う労働者の武器、「背景資本攻撃」等に見られる使用者概念（「事業主」のための行為するすべての者）の拡大を抑え

### 労基法改悪攻撃 その本質と背景 ②

こみ、資本の不当労働行為を野放しにするものである。(3)十九条の解雇制限を改悪する方向を打ち出している。これは解雇一般の法的規制強化、また大量解雇規制への消極意見という体裁をとって述べられているが、「企業経営上の理由により経営の継続が困難になっている企業について解雇規制を強化することの意義如何（つまり）経営困難になった企業が、労働者の首を切るには仕方ないでしよう」と本音を露呈している。産業構造再編を狙い、構造不況業種を中心にブルジョア階級が指名解雇攻撃を拡大し、もって増収増益へと結びつけている現状で、それを正面から認める。このような報告がなされたことは重大である。とりわけ、前々号で指摘した通り、労災・職業病患者にとつてこのことは労基法改悪攻撃と合わせ、生死に関わる事態と言つて過言ではない。(4)そして、争議団の否定にもつながら争議介入の新機構の設置である。ブルジョア労働法においては「労使対等決定の原則」をもって、労働者階級の経済闘争を合法化し、体制内に取り込むことで、支配の安定を組織してきた。しかし、民事執行法がその突破口となったように、今度は労基法の側から「労使紛争の迅速な解決」と称して、国家権力の直接介入を合法化・追認せんとしている。激発する労働争議（とくに既成労組指導部・労働貴族どもの統制を打ち破り決起しつつある）に対して、「勸告に従わない、それ故争議とは認めない違法行為」とし、刑事弾圧の拡大強化に大きく道を開くものである。戦前の「サーベール調停」と言われた争議調停法（この間、出向・派遣や、元請下請孫請等、雇用関係の複雑化（これはとりもなおさず独占の支配の強化と一対になつた搾取・収奪の体系化）もあつた）をめぐる、労使関係の見直しを提起している。これは現在そのほとんどが独占の請下化している中小企業において、反側産別争を闘う労働者の武器、「背景資本攻撃」等に見られる使用者概念（「事業主」のための行為するすべての者）の拡大を抑え

### 全金民同の破産を突き破り 枯野を焼きつくさん!

現場労働者の日々の生活実態に耐乏生活の強制への怒りを根拠に全通民同は「八〇年春闘方針大綱」を発表し、二万円の賃上げ（二〇％のべア）を統一要求とした。しかし、これすらインフレ・物価上昇の後を追いかけているにすぎず、更に右翼的「労戦統一」がらみの総評・春闘共闘の八〇％要求など、現場労働者にとってはお話しにもならない要求なのだ。

### 全金の「戦闘性」とは?

全金加盟支部（六八六支部）の平金賃金状況を見ると、大手支部に何ら手をふれることがなく、低額要求と重ねあわせてみれば「経営実績」状態を前提にして組むという単純なものでは決してない。

### 統一パスにすぎない民同

現在、右翼的「労戦統一」が日程のぼればのぼるほど、全金の動向が、というより、全金民同の動向と、先進的労働者の役割が重大なものとなってきた。それは全金傘下の多くが、多かれ少なかれ独自の請下か、その圧迫を受けている中小零細企業の労働組合で

### 枯野を焼きつくす 闘いの火花をつくりだせ!

わが組合にあっても「赤字経営」を口実とする賃金抑制・労働強化に対する広汎な不満を有効な反撃へと組織しえず、八〇春闘を迎えんとしている。八五〇〇円の最賃すら確保していない労働者が多数存在するという実態（全金傘下で）は、一方であきらめと個人の不平・不満や反抗に終始させてはいても、他方、闘いの火花を待った乾いた枯草のようだ。赤字だ、黒字だはおれたち労働者には関係ない。それは経営者の責任だ。生活できる賃金と働きやすい職場をつくれ」という闘いから始めなければならない現実を直視し、職場の不満を闘う団結へとつくりか

### 反動性むきだす 78年報告

では、七八年報告の反動性・攻撃性とは何か? 「男女雇用機会均等法」を理由として、長時間労働・深夜業・危険有害業務等の制限・禁止規定の緩和・生休の廃止、パート労働条件の規定などを打ち出したこの報告は、周知の通り、東京商工会議所の「労働基準法に関する意見書（七〇年）」を踏襲したものである。この事実自体が報告の狙いを暴露しているものであるが、それは、①高度成長期、若年労働力の慢性的不足を補うものとして大量に生み出されたパートタイマー（ここでは、六一条一八八条の保護規定など、事実上存在しない）に典型的な女性労働者の劣悪な労働条件を、その劣悪さの前提たる社会的女性差別を強化（育児法制定化、あるいは「家庭の日」設置策動を見よ）しつつ、法制度の追認し構造化せんとするものであり、②それを通過し、全労働者階級の労働条件を、まさに今日の資本主義の危機に見合ったものとして切り下げんとするものに他ならない。そして、重要なことは、この攻撃が七八年秋、つまり民事執行法が具体的な日程にのぼり、右翼的「労戦統一」が再浮上し、また来たる東京大会にのぞまねばならない。

### 79年報告の狙い

この七八年十一月報告をうけて七九年九月報告は提出された。(1)就業規則(八九条・九三条)についても資本のインシアチフで作成・運用されるものとして「就業規則」は規定されているが、「報告」はその規範的拘束力の強化・拡大を狙って、その作成・変更九〇条をめぐり労働者の立場を否定し、労働者の同意を必要とすれば、就業規則作成も円滑に進まないとまで言い切っている。これは中小零細企業での未組織（それ故労働協約もない）職場において、就業規則が全くの使用者の一方的判断・恣意に委ねられている現状を追認するばかりではなく、労使交渉を合法化し、体制内に取り込むことで、支配の安定を組織してきた。しかし、民事執行法がその突破口となったように、今度は労基法の側から「労使紛争の迅速な解決」と称して、国家権力の直接介入を合法化・追認せんとしている。激発する労働争議（とくに既成労組指導部・労働貴族どもの統制を打ち破り決起しつつある）に対して、「勸告に従わない、それ故争議とは認めない違法行為」とし、刑事弾圧の拡大強化に大きく道を開くものである。戦前の「サーベール調停」と言われた争議調停法（この間、出向・派遣や、元請下請孫請等、雇用関係の複雑化（これはとりもなおさず独占の支配の強化と一対になつた搾取・収奪の体系化）もあつた）をめぐる、労使関係の見直しを提起している。これは現在そのほとんどが独占の請下化している中小企業において、反側産別争を闘う労働者の武器、「背景資本攻撃」等に見られる使用者概念（「事業主」のための行為するすべての者）の拡大を抑え

### 労基法改悪攻撃 その本質と背景 ②

こみ、資本の不当労働行為を野放しにするものである。(3)十九条の解雇制限を改悪する方向を打ち出している。これは解雇一般の法的規制強化、また大量解雇規制への消極意見という体裁をとって述べられているが、「企業経営上の理由により経営の継続が困難になっている企業について解雇規制を強化することの意義如何（つまり）経営困難になった企業が、労働者の首を切るには仕方ないでしよう」と本音を露呈している。産業構造再編を狙い、構造不況業種を中心にブルジョア階級が指名解雇攻撃を拡大し、もって増収増益へと結びつけている現状で、それを正面から認める。このような報告がなされたことは重大である。とりわけ、前々号で指摘した通り、労災・職業病患者にとつてこのことは労基法改悪攻撃と合わせ、生死に関わる事態と言つて過言ではない。(4)そして、争議団の否定にもつながら争議介入の新機構の設置である。ブルジョア労働法においては「労使対等決定の原則」をもって、労働者階級の経済闘争を合法化し、体制内に取り込むことで、支配の安定を組織してきた。しかし、民事執行法がその突破口となったように、今度は労基法の側から「労使紛争の迅速な解決」と称して、国家権力の直接介入を合法化・追認せんとしている。激発する労働争議（とくに既成労組指導部・労働貴族どもの統制を打ち破り決起しつつある）に対して、「勸告に従わない、それ故争議とは認めない違法行為」とし、刑事弾圧の拡大強化に大きく道を開くものである。戦前の「サーベール調停」と言われた争議調停法（この間、出向・派遣や、元請下請孫請等、雇用関係の複雑化（これはとりもなおさず独占の支配の強化と一対になつた搾取・収奪の体系化）もあつた）をめぐる、労使関係の見直しを提起している。これは現在そのほとんどが独占の請下化している中小企業において、反側産別争を闘う労働者の武器、「背景資本攻撃」等に見られる使用者概念（「事業主」のための行為するすべての者）の拡大を抑え



単一のマルクス・レーニン主義党創建のための論戦

第二次ブンドの無総括主義と急進民主主義の縮少再生産をたどる烽火派を批判する(下)

【総目次】 はじめに/プロ革派との「連合」とその破産/戦争の要素の増大と国際主義の態度/ブンド論/超帝国主義論/烽火派の新たなカウツキー主義の本質(以上前号)/帝国主義と社会主義革命/国家と革命に対する態度/烽火派の急進民主主義政策阻止革命論の破産/社会主義革命を否定放棄し、社帝に武装解除する烽火派(以上前号) 各国革命も帝国主義打倒もなき、烽火派の「現代過渡期世界の止揚」 世界政治の中心と各国革命、国際闘争/日本プロレタリア階級の国際主義 烽火派の主張の雑然たる政治的性格と役割/烽火派はどこへ行く

現在では、一連の様々な社会革命とその連鎖・結合としてしか世界革命の発展はありえない(帝国主義と世界プロレタリア共産主義革命の時代)としての現代にあっては、世界革命は大別すれば三つのタイプの発展とその結合としてしかありえない。そして世界革命は、実際に帝国主義を地上から一掃し抜くことを通じてのみ、その最終目標たる、資本主義からの最後の不完全な脱却、単一の世界共産主義社会の創設、従ってそのテコと日程へ上せる発展段階へ進むことができるであろう。

各国革命も帝国主義打倒もなき、烽火派の「現代過渡期世界の止揚」

(上) (中) 烽火派の急進民主主義と無定見を徹底的に暴き出したわれわれは、今や、烽火派の主張の基礎を暴露、批判し、われわれに対する反論と立ちかえらねばならない。

烽火派の主張の雑然たる政治的性格と役割

ここまでに述べれば、烽火派のわれわれに対する批判の第一項が、どれほどにデマ・中傷・悪罵であるかが、完膚なきまでに示されるであろう。むしろ逆に強調されるべきは、烽火派の主張が現在の情勢においても客観的な政治的性格・意義・役割である。

日本プロレタリア階級の国際主義的態度

そうであるからこそ、日本のプロレタリア階級の闘いという点では、この民主主義のための闘いは、全般的階級闘争の一部分であり、必ず、社会主義のための闘いの利益に合致する限りのみ、又合致する仕方のみ、取り上げねばならない(だから、部分が全体に矛盾する場合には、その部分を否認する)とくに「自国をめぐらざる問題では、今日の日本の国家と社会の性質、その国際的地位と国際的相互関係という唯物論的土台を厳格に基礎にすえてあらゆる問題を促進していく水路となす、そのよ

烽火派の混乱と現在の世界政治の中心

現在はどうか? 烽火派は①②③の時期を重ねあわせ、それに④をつけ加えた情勢「超帝国主義的」の左翼「日和見主義」と他方での悲観主義の灰色の世界「絶望」という小ブルジョア的動揺が導かれる。それよりはむしろ、「三つの世界論」が述べられる。「ソ連・米」という二つの帝国主義超大国は、世界最大の国際的搾取者・抑圧者・侵略者となっており、全世界人民の共同の敵であり、これら両国間の争奪は必然的に新しい世界大戦をひきおこす。ソ連覇権主義者の世界における争奪、全世界人民にまたらす脅威及びこれに対する全世界人民の抵抗は当面の世界政治の中心問題になっている。他方「搾取と抑圧を最もひどく受け、又世界人口の大多数を占める被抑

世界政治の中心と各国革命・国際闘争

日本プロレタリア階級の国際主義的態度 日本プロレタリア階級の国際主義的態度は、世界最大の国際的搾取者・抑圧者・侵略者となっており、全世界人民の共同の敵であり、これら両国間の争奪は必然的に新しい世界大戦をひきおこす。ソ連覇権主義者の世界における争奪、全世界人民にまたらす脅威及びこれに対する全世界人民の抵抗は当面の世界政治の中心問題になっている。他方「搾取と抑圧を最もひどく受け、又世界人口の大多数を占める被抑

烽火派の主張の雑然たる政治的性格と役割

ここまでに述べれば、烽火派のわれわれに対する批判の第一項が、どれほどにデマ・中傷・悪罵であるかが、完膚なきまでに示されるであろう。むしろ逆に強調されるべきは、烽火派の主張が現在の情勢においても客観的な政治的性格・意義・役割である。

「全手島義選」というスローガンに反対する根拠がある(なお、このスローガンを「日本民族がアイヌの立場を内包しあわせねばならない」として正当化するのには「一種のペテンである」といって言うておけば、我々に対して「日本革命の政治路線と国際人民闘争の大方向は一律背反で分裂する」とか「後者は前者を壊す危険」とかの批判についての解答も以上十分であろう。むしろそういう人々は、世界を機械論的に見て弁証法を否定するが、「自国の窓」からだけ見ているのであり、丁度、「帝国主義戦争の時代に、民族自決権の擁護を綱領に入れたのは、革命的な社会主義を壊す崩し、社会主義に近づく危険をもつ」と主張してそれを否定した、ローザや左翼ボルシェビキの「ヨーロッパの排外主義」に類似した誤りを自敗すべきであろう。

烽火派の主張の雑然たる政治的性格と役割

ここまでに述べれば、烽火派のわれわれに対する批判の第一項が、どれほどにデマ・中傷・悪罵であるかが、完膚なきまでに示されるであろう。むしろ逆に強調されるべきは、烽火派の主張が現在の情勢においても客観的な政治的性格・意義・役割である。

日本プロレタリア階級の国際主義的態度

そうであるからこそ、日本のプロレタリア階級の闘いという点では、この民主主義のための闘いは、全般的階級闘争の一部分であり、必ず、社会主義のための闘いの利益に合致する限りのみ、又合致する仕方のみ、取り上げねばならない(だから、部分が全体に矛盾する場合には、その部分を否認する)とくに「自国をめぐらざる問題では、今日の日本の国家と社会の性質、その国際的地位と国際的相互関係という唯物論的土台を厳格に基礎にすえてあらゆる問題を促進していく水路となす、そのよ

烽火派の混乱と現在の世界政治の中心

現在はどうか? 烽火派は①②③の時期を重ねあわせ、それに④をつけ加えた情勢「超帝国主義的」の左翼「日和見主義」と他方での悲観主義の灰色の世界「絶望」という小ブルジョア的動揺が導かれる。それよりはむしろ、「三つの世界論」が述べられる。「ソ連・米」という二つの帝国主義超大国は、世界最大の国際的搾取者・抑圧者・侵略者となっており、全世界人民の共同の敵であり、これら両国間の争奪は必然的に新しい世界大戦をひきおこす。ソ連覇権主義者の世界における争奪、全世界人民にまたらす脅威及びこれに対する全世界人民の抵抗は当面の世界政治の中心問題になっている。他方「搾取と抑圧を最もひどく受け、又世界人口の大多数を占める被抑

世界政治の中心と各国革命・国際闘争

日本プロレタリア階級の国際主義的態度 日本プロレタリア階級の国際主義的態度は、世界最大の国際的搾取者・抑圧者・侵略者となっており、全世界人民の共同の敵であり、これら両国間の争奪は必然的に新しい世界大戦をひきおこす。ソ連覇権主義者の世界における争奪、全世界人民にまたらす脅威及びこれに対する全世界人民の抵抗は当面の世界政治の中心問題になっている。他方「搾取と抑圧を最もひどく受け、又世界人口の大多数を占める被抑

烽火派の主張の雑然たる政治的性格と役割

ここまでに述べれば、烽火派のわれわれに対する批判の第一項が、どれほどにデマ・中傷・悪罵であるかが、完膚なきまでに示されるであろう。むしろ逆に強調されるべきは、烽火派の主張が現在の情勢においても客観的な政治的性格・意義・役割である。

日本プロレタリア階級の国際主義的態度

そうであるからこそ、日本のプロレタリア階級の闘いという点では、この民主主義のための闘いは、全般的階級闘争の一部分であり、必ず、社会主義のための闘いの利益に合致する限りのみ、又合致する仕方のみ、取り上げねばならない(だから、部分が全体に矛盾する場合には、その部分を否認する)とくに「自国をめぐらざる問題では、今日の日本の国家と社会の性質、その国際的地位と国際的相互関係という唯物論的土台を厳格に基礎にすえてあらゆる問題を促進していく水路となす、そのよ

烽火派の混乱と現在の世界政治の中心

現在はどうか? 烽火派は①②③の時期を重ねあわせ、それに④をつけ加えた情勢「超帝国主義的」の左翼「日和見主義」と他方での悲観主義の灰色の世界「絶望」という小ブルジョア的動揺が導かれる。それよりはむしろ、「三つの世界論」が述べられる。「ソ連・米」という二つの帝国主義超大国は、世界最大の国際的搾取者・抑圧者・侵略者となっており、全世界人民の共同の敵であり、これら両国間の争奪は必然的に新しい世界大戦をひきおこす。ソ連覇権主義者の世界における争奪、全世界人民にまたらす脅威及びこれに対する全世界人民の抵抗は当面の世界政治の中心問題になっている。他方「搾取と抑圧を最もひどく受け、又世界人口の大多数を占める被抑

世界政治の中心と各国革命・国際闘争

日本プロレタリア階級の国際主義的態度 日本プロレタリア階級の国際主義的態度は、世界最大の国際的搾取者・抑圧者・侵略者となっており、全世界人民の共同の敵であり、これら両国間の争奪は必然的に新しい世界大戦をひきおこす。ソ連覇権主義者の世界における争奪、全世界人民にまたらす脅威及びこれに対する全世界人民の抵抗は当面の世界政治の中心問題になっている。他方「搾取と抑圧を最もひどく受け、又世界人口の大多数を占める被抑

烽火派の主張の雑然たる政治的性格と役割 烽火派の主張の雑然たる政治的性格と役割は、世界最大の国際的搾取者・抑圧者・侵略者となっており、全世界人民の共同の敵であり、これら両国間の争奪は必然的に新しい世界大戦をひきおこす。ソ連覇権主義者の世界における争奪、全世界人民にまたらす脅威及びこれに対する全世界人民の抵抗は当面の世界政治の中心問題になっている。他方「搾取と抑圧を最もひどく受け、又世界人口の大多数を占める被抑